

2022年度 第2回九大本番レベル模試(教法経) 国語 採点基準

全問題に共通する基準

国語の答案については次のように採点します。

1 次の各項に該当するものは、配点はないものとし、形式上の不備として、その設問の得点から一箇所について1点ずつ減点します。ただし、配点を越える減点はしないこととします。

a 誤字脱字。同じ漢字を複数回誤っても同一の大問の中では2回目以降はカウントしないこととします。脱字は一箇所につき1点の減点とします。

b 文を記述する設問で文末の句点の抜けている場合も脱字とし1点減点します。

c 字数指定のあるとき、最後のマス目まで文字が書いてある場合も脱字とし1点減点します。

d 字数指定のあるとき、最後のマス目に文字と句点を同居させている場合。これは本来字数超過で3bから0点とすべきですが脱字とし1点の減点に留めます。

e 字数指定のあるとき、一マスに記述記号と文字を同居させたり、あるいは吹き出し用いたり二重線で消したりするなど、解答欄を不適切に用いたものは、原則としてそれぞれ1点の減点としてください。

f 不適切な文末処理。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないもの。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなど。ただし、「ことである。」「などの表現も」「こと」で結んでいるものと認めます。また、「から」で結んでいるものと認めます。

※文末の処理の仕方について各大問・各設問で異なる指示がある場合があります。不問とする場合もあれば配点されている場合もあります。

2 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。

c 説明問題で、解答が途中で終わっているもの。

4 それ以外の記述式の設問で、2点以上の配点のある設問(要素)は、原則として採点基準に従い部分点を与えますが、採点基準に指示がない場合は、本文の趣旨と採点基準の考え方を踏まえた上で、配点の範囲内で適宜採点します。

一 (評論) 採点基準 (合計 60点)

☆二・三の現代文の配点は、「内容点」(ABC・・・)と「構造点」(XYZ・・・)で構成されます。また、内容点は各条件内に要素(①②③・・・)が3つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が1点プラスされます。

問1 10点

(模範解答例)

A①〇1点

資本主義は、〈A 1点〉

B①〇1点

B②〇1点

B③〇1点

B④〇1点

一方で、どのような価値観、世界観、

歴史的背景をもつ文化的なコンテキストにも適応する

普遍性を持つが、

C①〇1点

C②〇1点

C③〇1点

他方で、まずは西欧でのみ誕生することです、

特定文化と深く結合している

社会システムであるという

C④〇1点

特殊性も持つこと。〈C 4点〉

X〈逆説〉ABとCの両方の要素に〇↓+1点

(内容【9点】+構造【1点】=10点)

【構造点】

・Xは、傍線部中の「資本主義」を説明すべく、話題のAを、B、Cの〈矛盾〉する二要素に引き裂いて説明してゆく〈逆説||矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈条件A、Bの要素、Cの要素〉内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説||矛盾を含むこと〉 〈A、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「資本主義は、」〈1点〉

※ 傍線部を説明するための話題の条件。

※ 「資本主義」の成分が入っていないければ✕。

B「一方で、どのような価値観、世界観、歴史的背景をもつ文化的なコンテキストにも適応する普遍性を持つが、」〈4点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく一方の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点(3要素以上であれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。)

①「一方で、どのような価値観、」(1点)

✕ 「価値観」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「世界観」(1点)

× 「世界観」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「歴史的背景をもつ文化的なコンテキストにも適応する」(1点)

○ 「歴史的背景の文化的な脈絡にも適応する」「歴史的背景を有する文化的な事情にも適合する」などでも可。

× 「歴史的背景(を持つ文化的なコンテキスト)に適合」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「普遍性を持つが」(1点)

× 「普遍性」の成分が入っていないければ×。

C 「他方で、まずは西欧でのみ誕生することで、特定文化と深く結合している社会システムであるという特殊性も持つこと。」(4点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく、Bとは矛盾する他方の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点(3要素以上であれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。)

① 「他方で、まずは西欧でのみ誕生すること」(1点)

○ 「他方で、西欧においてだけ発生すること」、「他方、まずは西欧に限定されて生まれたこと」、「などでも可。

× 「西洋で(のみ)誕生」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

× 「西洋でのみ誕生」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

× 「限定」の成分が入っていないものは不可×

② 「特定文化と深く結合している」(1点)

○ 「特定文化と深く結びついている」「特定文化との結びつきが強い」などでも可。

× 「特定文化との結びつき」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「社会システムである」(1点)。

× 「社会システム」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「特殊性も持つこと」(1点)

× 「特殊性」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点 A③○1点

A④○1点(A4点)

本格的な資本主義が起こった

西欧は、当時のグローバルな経済状況から判断すると

後進地域であったし、

B①○1点

B②○1点

B③○1点

B④○1点 (B4点)

また、資本主義の生誕の原因が、

カトリックから生まれ、

カトリックに対抗した

カルヴァニズムに求められ

ているから。(C4点)

X(分析Ⅱ分けること) ↓AとBに○ ↓+1点

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

・Xは、傍線部のように筆者が言う理由を、Aの「地理的条件」と、Bの「宗教的条件」の(矛盾)しない二条件に(分析Ⅱ分けること)して説明してゆく構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとなして1点加点。

X(分析Ⅱ分けること) Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「本格的な資本主義が起こった西欧は、当時のグローバルな経済状況から判断すると後進地域であったし、」
(4点)

※筆者が傍線部のように言う理由を説明する「地理的条件」。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点(3要素以上であれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていない場合は0点。)

① 「本格的な資本主義が起こった」(1点)

○ 「本格的な資本主義が誕生した西欧は」「資本主義が実質的に勃興した西ヨーロッパは、」などでも可○。

✖ 「資本主義の誕生した西欧」のニュアンスの成分が入っていないと✖。

② 「西欧は、」(1点)

✖ 「西欧」のニュアンスの成分が入っていないと✖。

③ 「当時のグローバルな経済状況から判断すると」(1点)

○ 「その当時のグローバルな経済情勢から見ると」「その時期のグローバルな経済事情から鑑みると」などでも可○。

✖ 「当時のグローバルな経済情勢から見ると」のニュアンスの成分が入っていないと✖。

④ 「後進地域であったし、」(1点)

✖ 「後進地域」のニュアンスの成分が入っていないと✖。

B 「また、資本主義の生誕の原因が、カトリックから生まれ、カトリックに対抗したカルヴァニズムに求められているから。」(4点)

※筆者が傍線部のように言う理由を説明する「宗教的条件」。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。(3要素以上であれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。)

①「また、資本主義の生誕の原因が、」(1点)

○「さらに資本主義の登場の要因が、」そして資本主義興隆の理由が、「などでも可○。
✕「資本主義誕生の理由」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「カトリックから生まれ」(1点)

○「カトリックから生起し、」カトリックを母胎とし、「などでも可。
✕「カトリックから産まれる」のニュアンス成分が入っていないければ✕。

③「カトリックに対抗した」(1点)

○「カトリックに反抗した」「カトリックに抵抗した」などでも可。
✕「カトリックに対抗」のニュアンス成分が入っていないければ✕。

④「カルヴァニズムに求められているから。」(1点)

○「カルヴァニズムにあるとされているから。」「カルヴァニズムによると言われているから。」などでも可。
✕「カルヴァニズムにある」のニュアンス成分が入っていないければ✕。

問3 9点

(模範解答例)

A①○2点

A②○1点

A③○1点

当時の後進地域であった西欧で

カルヴァニズムと結合して誕生した

資本主義は、

〈A4点〉

B①○1点

B②○2点

B③○1点

〈B4点〉

どの特定の社会的文脈においても 十分に充足しえないという意味での違和を、その本性としているから。

X〈分析II分けること〉↓AとBに○↓+1点

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

・Xは、傍線部の理由を、〈因果関係〉をなす二条件A、Bで説明する〈分析II分けること〉の構造への評価である。ここでは、

Aの要素、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析II分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点(の採点のポイント)は以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「当時の後進地域であった西欧でカルヴァニズムと結合して誕生した資本主義は、」〈4点〉

※ 傍線部の理由説明をするための〈因果関係〉の〈因〉の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。

①「当時の後進地域であった西欧で」(2点)

○「当時は相当な後進地域だった西欧で」「当時後進地域でしかなかった西欧で」などでも可○。

▲「当時の後進地域」「西欧」のどちらかが欠けている場合は▲1点減点で△1点。

② 「カルヴァニズムと結合して誕生した」(1点)

○ 「カルヴァニズムと結びついて登場した」「カルヴァニズムに依拠して出現した」などでも可○。

× 「カルヴァニズムと結合して誕生」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「資本主義は、」(1点)

× 「資本主義」の成分が入っていないければ×。

B 「どの特定の社会的文脈においても十分に充足しえない」という意味での違和を、その本性としているから。」

〈4点〉

※ 傍線部の理由説明をするための〈因果関係〉の〈果〉の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。

① 「どの特定の社会的文脈においても」(1点)

○ 「どんな特殊な社会的文脈にあっても」「どの固有な社会的文脈に置かれても」などでも可○。

× 「どの特定の社会的文脈でも」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「十分に充足しえない」という意味での違和を、」(2点)

○ 「十分に満足しえない」という事情での違和を」「不十分にしか充足しえない」という意味での違和を」などで可○。

▲ 「十分に充足しえない」「違和」のどちらかの成分が欠けている場合は▲1点減点で△1点

③ 「その本性としているから。」(1点)

○ 「その本質としているから。」「その核心とするから。」などでも可。

× 「その本性」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

問4 13点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○2点

A④○1点

「われわれ日本人」が 捕鯨のような伝統に 西欧のNPOから抗議を受けると

不快に思うように、〈A5点〉

B①○1点

B②○2点

B③○3点

インドの寡婦の殉死の慣習から 人権の名の下に彼女らを救済しようとするのは、

インドの人々が求めている

B④○1点

「どの」の「われわれ」の価値観の押しつけであり、 彼らに「不快感を味合わせるだけだ」と思うから。〈B7点〉

X〈分析〉AとBに○↓1点

(内容【12点】+構造【1点】=13点)

【構造点】

☆ Xは、傍線部の理由を、Aの〈われわれ日本人の反応〉と、B〈インドの人々の反応〉の〈矛盾〉しない二条件に〈分析〳分けること〉として説明する構造への評価である。ここでは、Aの要素とBの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立している」とみなして1点加点。

X〈分析〳分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 『われわれ日本人』が捕鯨のような伝統に西欧のNPOから抗議を受けると不快に思うように」〈4点〉

※ 傍線部の理由説明をするための〈われわれ日本人の反応〉の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。

① 『われわれ日本人』が」(1点)

× 「(われわれ)日本人」の成分が入っていないければ×。

② 「捕鯨のような伝統に」(1点)

○ 「伝統的な捕鯨に」「伝統としての捕鯨に対して」などでも可○。

× 「捕鯨(のような伝統)」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「西欧のNPOから抗議を受けると」(2点)

○ 「西欧のNPOから抗議されると」「西欧のNPOから抗議行動を起こされると」などでも可○。

× 「西欧のNPOによる抗議」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「不快に思うように、」(1点)

○ 「不快感を味わうように」「反感を覚えるように」などでも可○。

× 「不快感」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「インドの寡婦の殉死の慣習から人権の名の下に彼女らを救済しようとするのは、インドの人々が求めている」とへの『われわれ』の価値観の押しつけであり、彼らに不快感を味合わせるだけだと思うから。」〈7点〉

※ 傍線部の理由説明をするための〈インドの人々の反応〉の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。

① 「インドの寡婦の殉死の慣習から」(1点)

○ 「インドの寡婦を殉死の風習から」「殉死の慣習からインドの寡婦を」などでも可○。

× 「インドの寡婦」「殉死の慣習」のニュアンスの二成分が入っていないければ×。

② 「人権の名の下に彼女らを救済しようとするのは、」(2点)

○ 「人権の名分において彼女たちを救い出そうとするのは、」「人権を標榜して彼女たちを救出しようとするのは、」などでも可○。

▲ 「人権の名において」のニュアンスの成分が入っていないければ▲1点減点で△1点。

③ 「インドの人々が求めていることへの『われわれ』の価値観の押しつけであり、」(3点)

○ 「インドの人々が望んでいることへの日本人の『価値観』の強要であり、」「インドの人々の要請へのわれわれの価値的な考え方の無理強いであり、」などでも可○。

▲ 「インドの人々が求めていること」の成分が入っていないければ▲1点減点で△2点。

④ 「彼らに不快感を味合わせるだけだと思うから。」(1点)

○ 「彼らを不快にさせるだけだと考えるから。」「彼らに嫌な思いをさせるだけだと感じるから。」などでも可○。

× 「(彼らに)不快感を味合わせるだけだ」の成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇2点

A②〇1点

われわれとヒンドゥー教徒などの間に 分有されている。

A③〇2点

普遍的な正義の感覚や共通の道徳的配慮などではなく、〈A5点

B①〇1点

B②〇1点

B③〇1点

彼我それぞれの文化が 自分自身に対して持つ、 違和、否定性であるもの。〈B3点

X〈分析〉AとBに〇↓1点

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「普遍性」を、〈notP~butQ〉の構文を構成する〈矛盾しない二条件A、Bに〈分析〓分けること〉して説明する構造——〈notP~butQ〉の構文は、例えば〈男じゃないよ、女だよ〉のように、否定の成分〈notPじゃないよ〉が入ることによって、〈男じゃないよ〉+〈女〉となつて、〈矛盾〉が入り得る二条件からその〈矛盾〉を抜き去つて、〈矛盾〉しない二条件に〈分析〓分けること〉する構造を作る——への評価である。もちろん、A〓〈notP〉、B〓〈butQ〉である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「われわれとヒンドゥー教徒などの間に分有されている、普遍的な正義の感覚や共通の道徳的配慮などではなく、」〈5点

※ 傍線部の「普遍性」説明をするための〈notP〉の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点。

①「われわれとヒンドゥー教徒などの間に」(2点)

○「われわれ日本人とヒンドゥー教徒などとの間に」「日本人とヒンドゥー教徒などに」などで。

×「われわれとヒンドゥー教徒など(との間)に」の成分が入っていないならば×。

②「分有されている、」(1点)

○「共有されている、」「分かち持たれている、」などでも可○。

×「分有」のニュアンスの成分が入っていないならば×。

×「共通」という表現は不可×。

③「普遍的な正義の感覚や共通の道徳的配慮などではなく、」(2点)

○「普遍的な正義感や共有された人道的な思いやりなどではなく、」「みんなに当てはまる正義の感覚や同じ人道的な気遣いなどではなく、」などでも可○。

▲「普遍的な正義の感覚」「共通の道徳的配慮の否定」のどちらかのニュアンスが抜けている場合、▲1点減点で△1点。

B「彼我それぞれの文化が自分自身に対して持つ、違和、否定性であるもの。」〈3点

※ 傍線部の「普遍性」説明をするための〈butQ〉の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点(2要素以上があれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。)

①「彼我それぞれの文化が」(1点)

○「われわれの文化と彼の文化のそれぞれが」「われわれとかれらの文化それぞれが」などでも可○。

✕「(彼我)それぞれの文化」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「自分自身に対して持つ」(1点)

○「自らに対して持つ」、「自分に向けて抱く」などでも可○。

✕「自己に対して持つ」、「のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③「違和、否定性であるもの。」(1点)

○「違和感であるもの。」「否定的な感覚であるもの。」などでも可○。

✕「違和、否定性」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

問6 10点

(模範解答例)

A①○1点

A②○2点

A③○1点

彼我の文化共に

各自の特殊性に自己同一化しようとするや、

内的抵抗が生ずるが、

〈A 4点〉

B①○2点

B②○1点

B③○1点

B④○1点

〈B 5点〉

全ての文化を貫通する〈普遍性〉たる

この抵抗を基に

連帯を築き、

特殊文化の克服を目指すこと。

X〈分析〉AとBに○↓1点

(内容【9点】+構造【1点】=10点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、〈因果関係〉を構成する〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析〓分けること〉して説明していく構造への評価である。ここではA、Bの要素がそれぞれ二つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意

A 「彼我の文化共に各自の特殊性に自己同一化しようとするや、内的抵抗が生ずるが、」〈4点〉

※ 傍線部を、〈因果関係〉で説明してゆく〈因〉の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。

① 「彼我の文化共に」(1点)

○『彼らの文化』も、『われわれの文化』も「向こうとこちらの文化共に」などでも可○。

✕「彼我の文化共に」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「各自の特殊性に自己同一化しようとするや、」(2点)

○「それぞれの特殊性に自己同一化を図ろうとするや、」「各々の文化の特殊性に自己をはめこもうとするや、」などでも可○。

✕「各自の特殊性に自己同一化しようとする」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③ 「内的抵抗が生ずるが、」(1点)

- 「内的な抵抗を生むが、」「内側からの抵抗が頭をもたげるが、」などでも可○。
- ✖ 「内的抵抗」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B 「全ての文化を貫通する〈普遍性〉たるこの抵抗を基に連帯を築き、特殊文化の克服を目指すこと。」「

〈5点

※ 傍線部を、〈因果関係〉で説明してゆく〈果〉の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点

① 「全ての文化を貫通する〈普遍性〉たる」(2点)

- 「文化の全てを貫く普遍的質である」「全文化に通底する〈普遍性〉といえる」などでも可○。
- ✖ 「全文化を貫通する普遍性」のニュアンスの成分が入っていないければ✖

② 「この抵抗を基に」(1点)

- 「この抵抗感に依拠して」「この抵抗を土台にして」などでも可○。
- ✖ 「抵抗を基に」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③ 「連帯を築き、」(1点)

- 「連帯を追求し、」「連帯を結び、」などでも可○。
- ✖ 「連帯」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④ 「特殊文化の克服を目指すこと。」「」(1点)

- 「特殊文化の超越を論めること。」「特殊文化の境界越えを図れること。」「などでも可○。
- ✖ 「特殊文化の克服」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

□ 現代文（評論）採点基準（合計60点）

問1 8点

（模範解答例）

A①○1点 A②○1点 A③○1点

テレビ放送で 臨場感を出すために、スタジオに観客を入れたが、〈A3点〉

B①○1点 B②○1点

観客は 笑いのタイミングを外すことが多く〈B2点〉

C①○1点 C②○1点

録音済みの笑い声や拍手の音を ちょうど良い時に流す必要が生じたから。〈C2点〉

X〈分析〉A・B・Cのうち2つ以上に○↓1点

（内容【7点】＋構造【1点】＝8点）

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由を説明すべく、話題のAを、〈因果関係〉をなす、〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析〓分けること〉して説明してゆく構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「テレビ放送で臨場感を出すために、スタジオに観客を入れたが、」〈3点〉

※ 傍線部の理由説明を説明するための話題の条件。

満点（3点）内で、得点があれば要素点＋1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「テレビ放送で」（1点）

○ 「テレビ番組で」「テレビ放映で」などでも可○。

× 「テレビ放送」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「臨場感を出すために、」（1点）

○ 「ライブの臨場感を生み出すために、」「ライブ感覚を醸し出すために、」などでも可○。

× 「臨場感を生み出す」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「スタジオに観客を入れたが、」（1点）

○ 「スタジオに観客を動員したが、」「スタジオに観客を招き入れたが、」などでも可○。

× 「スタジオに観客を入れる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 観客は笑いのタイミングを外すことが多く、」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈因〉の条件。

①「観客は」(1点)

※「観客」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「笑いのタイミングを外すことが多く、」(1点)

○「しばしば笑いのタイミングを外すので、」笑うタイミングを乱しがちになるので「などでも可○」。
✕「笑いのタイミングを外すことが多い」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C「録音済みの笑い声や拍手の音をちよつど良い時に流す必要が生じたから。」(2点)

※傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈果〉の条件。

①「録音済みの笑い声や拍手の音を」(1点)

○「録音した笑い声や拍手音を」「前もって収録した笑いや拍手の音を」などでも可○。
✕「録音済みの笑いや拍手の音」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。
✕「笑い声」と「拍手の音」のどちらか一方だけは不可✕。

②「ちよつど良い時に流す必要が生じたから。」(1点)

○「タイミング良く流すことが必要になったから。」「映像に合わせるように流すことが求められたから。」などでも可○。

✕「ちよつど良いときに流す必要」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

問2 11点

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点

A③○1点

視聴者に 笑いのタイミング教えて

間違いなく笑えるようにするし、

〈A3点〉

B①○1点

B②○1点

B③○1点

B④○1点

B⑤○1点

〈B5点〉

また素材の映像を さらに面白くし、

笑いのツボを

視聴者が考える必要のない

気持ち良いものにするという

C○1点

効果。〈C1点〉

X〈分析〉AとBに○→1点

Y〈総合〉Cに○→1点

(内容【9点】+構造【2点】=11点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「効果」を、〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析〉わけることとして説明する構造への評価である。ここでは、Aの要素、Bの要素が、それぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析〉分けること〈 Aの要素+Bの要素 ○1点

☆Yは、A、BをCの「効果。」として〈総合〉まとめることとする構造への評価である。ここではCがあれば、この構造が暗黙裡に構想されているとみなして1点加算。

Y〈総合〉Cに○ 1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「視聴者に笑いのタイミング教えて間違いなく笑えるようにするし、」〈A3点〉

※ 傍線部の「効果」説明をするための一方の条件。

満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「視聴者に」(1点)

×「視聴者」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「笑いのタイミング教えて」(1点)

○「笑うべきタイミングを教える」「どこで笑えばいいかを案内し」などでも可○。

×「笑いのタイミングを教える」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「間違いなく笑えるようにするし、」(1点)

○「しかるべき時に笑えるようにするし、」「的確に笑えるようにしてくれるし、」などでも可○。

×「間違いなく笑えるようにする」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「また素材の映像をさらに面白くし、笑いのツボを視聴者が考える必要のない気持ち

良いものにするという」(5点)

※ 傍線部の「効果」説明をするための他方の条件。

満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点。4要素以上あれば5点、3要素であれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点

①「また素材の映像を」(1点)

○「また素材である映像を」「また素材であるイメージを」などでも可○。

×「素材の映像」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「さらに面白くし、」(1点)

○「より面白いものにし、」「面白さを増したものにし、」などでも可○。

×「さらに面白い」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「笑いのツボ」(1点)

○「笑いの急所」「笑いの核心」などでも可○。

×「笑いのツボ」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④「視聴者が考える必要のない」(1点)

○「視聴者が考えないで済む」「視聴者に考えさせないで澄む」などでも可○。

×「視聴者が考える必要のない」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

⑤「気持ち良いものにするという」(1点)

○「快いものにする」「気持ちのよさを与える」などでも可○。

×「気持ちのよいもの」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「効果。」(1点)

×「効果。」の成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点 A③○1点

笑いは おかしいから自ずと生まれる 自発的なものようにして (A3点)

B①○1点 B②○1点 B③○1点

実はどこがおかしいかを的確に把握しなければ 笑えないという 逆説を孕んでおり (B3点)

C①○1点 C②○1点 C③○1点

私たちにはそのおかしみがわかるかという問いに 答える義務が生ずるが、「笑いの確話」が

C④○1点

そのプレッシャーを軽減する働きをしていると考えるから。(C4点)

X (逆説) AとBの要素に○↓1点

Y (総合) Cに○↓1点

(内容【10点】+構造【2点】=12点)

【構造点】

☆Xは、傍線部のようにジジエクが言う理由を、(矛盾)する二条件A、Bに引き裂いて説明する(逆説||矛盾を含むこと)の構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X (逆説||矛盾を含むこと) Aの要素+Bの要素 ○1点

☆Yは、A、BをCに(総合||まとめること)として結論づける——否定の要素も後から付け加えるが——

構造への評価である。ここではCの要素があれば、この構造が暗黙裡に構想されたとみなして1点加算。

Y (総合||まとめること) Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点(7点)の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「笑いはおかしいから自ずと生まれる自発的なものようにして、」(3点)

※ 傍線部のようにジジエクが言う理由を説明するための譲歩的な一方の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。2要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「笑いは」(1点)

✕「笑いは」の成分が入っていないければ✕。

②「おかしいから自ずと生まれる」(1点)

○「面白いから自然に発生する」「おかしいので必然的に生まれる」などでも可○。

✕「おかしいから(自ずと)生まれる」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③「自発的なものようにして、」(1点)

○「自主的なものようにみえるが、」「自然発生的なもののようにして」などでも可○。

✕「自発的なもの」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「実はどこがおかしいかを的確に把握しなければ笑えない」という逆説を孕んでおり、「〈3点〉

※ 傍線部のようにジジエクが言う理由を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。2要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていなければ0点。

① 「実はどこがおかしいかを的確に把握しなければ」(1点)

○ 「どこにおかしさがあるのかを確実に理解しなければ」「おかしさのものがどこにあるのかを正確につかまないと」などでも可○。

× 「何処がおかしいのかを的確に把握する」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「笑えないという」(1点)

× 「笑えない」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「逆説を孕んでおり、」(1点)

○ 「逆説を含んでおり、」パラドックスを内蔵しており、「などでも可○。

× 「逆説を孕む」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「私たちにはそのおかしみがわかるかという問いに答える義務が生ずるが、『笑いの罐詰』がそのプレッシャーを軽減する働きをしていると考えるから。」〈4点〉

※ A、Bをまとめて、さらに否定の要素を加味して結論づける条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素で3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「私たちにはそのおかしみがわかるかという問いに」(1点)

○ 「私たちはそのおかしさが理解できるかという問いかけに」「そのおかしさの根拠が分かるかという問いに」などでも可○。

× 「おかしみがわかるかという問い」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「答える義務が生ずるが、」(1点)

○ 「答えなければならぬが、」「答える義務を負うことになるが」などでも可○。

× 「答える義務」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 『笑いの罐詰』が」(1点)

× 『笑いの罐詰』の成分が入っていないければ×。

④ 「そのプレッシャーを軽減する働きをしていると考えるから。」(1点)

○ 「そのプレッシャーを緩和する効果を持つと考えるから。」「その圧力を軽くする機能を持つとみなすから。」などでも可。

× 「プレッシャーを軽減する働き」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A 〇1点

「笑いの雑話」は、〈A 1点〉

B ①〇1点 B ②〇1点

笑いの勘所を 教えてくれるだけでなく、〈B 2点〉

C ①〇1点 C ②〇1点

私たちの代わりに 笑うという仕事をしてくれることで、

笑える気分、

楽しい雰囲気の中に

C ⑤〇1点

私たちを招いてくれること。〈C 5点〉

X 〈分析〉 ABのうち1つ以上+Cに〇→1点

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の内容を説明すべく、話題のAを、「二つの解釈」を前提に、「もう一つの解釈」でも説明して行く構造への評価である。つまり、Aを〈not onlyP-but alsoQ〉の構文を構成する、〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析〓分けること〉する構造への評価である。この場合は、〈A、Bの要素、Cの要素〉の内の二種以上二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X 〈分析〓分けること〉 〈A、Bの要素、Cの要素〉の二種以上二つ以上 〇1点

◎採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 『笑いの雑話』は、〈1点〉

※傍線部を説明するための話題の条件。

✕ 『笑いの雑話』の成分が入っていないければ✕。

B 「笑いの勘所を教えてくれるだけでなく」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを〈not onlyP-but alsoQ〉の構文で説明する〈not onlyP〉の条件。

① 「笑いの勘所を」(1点)

○ 「笑いのツボを」「笑いの急所を」などでも可○。

✕ 「笑いの勘所」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「教えてくれるだけでなく」(1点)

○ 「知らせてくれるだけでなく」「教えてくれるのみならず」などでも可○。

✕ 「教えてくれる」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 「私たちの代わりに笑うという仕事をしてくれること」で、笑える気分、楽しい雰囲気の中に私たちを招いてくれること。〈5点〉

※傍線部を説明すべく、Aを〈not onlyP-but alsoQ〉の構文で説明する〈but alsoQ〉の条件。

以下の5要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点。4要素以上があれば5点、3要素あれば4点、2要素あれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「私たちの代わりに」(1点)

✖ 「私たちの代わりに」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「笑うという仕事をしてくれることば」(1点)

○ 「笑う仕事を担当してくれることば」、「笑う役割を担ってくれることば」などでも可○。

✖ 「笑う仕事をしてくれる」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③「笑える気分」(1点)

○ 「笑える気持ち」「笑うことができる情緒」などでも可○。

✖ 「笑える気分」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④「楽しい雰囲気の中に」(1点)

○ 「楽しい雰囲気へと」「楽しい空気の中に」などでも可○。

✖ 「楽しい雰囲気」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

⑤「私たちが招いてくれること。」(1点)

✖ 「私たちが招く」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問5 11点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

A④○1点

調子のよい雰囲気と 笑える気分を 視聴者に振りまくという

目的は果たしているもの。(A 4点)

B①○1点

B②○1点

B③○1点

形骸化した笑いの技術を使って それ自体はさしておかしくはない話を 面白おかしそうに話す仕事を

B④○1点

生真面目にこなしている。(B 4点)

C○1点

芸人たちやタレントたち。(C 1点)

X (逆説) AとBに○↓1点

Y (総合) Cに○↓1点

(内容【9点】+構造【2点】=11点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を、A、Bの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明してゆく〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。

ここでは、条件A、条件Bの要件がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説=矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

・Yは、A、BをCに〈総合=まとめること〉する構造への評価である。ここではCがあればこの構造が暗黙裡に構想されているとみなして1点加点。

X〈総合=まとめること〉 C ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「調子のよい雰囲気と笑える気分を視聴者に振りまく」という目的は果たしているもの、」〈4点〉

※ 傍線部を説明するための譲歩的な一方の条件。

以下の四要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素で3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「調子のよい雰囲気と」(1点)

○ 「ちょうど良い雰囲気」「乗りの良い雰囲気」などでも可○。

× 「調子の良い雰囲気」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「笑える気分を」(1点)

○ 「愉快的気分を」「笑いに誘う気分を」などでも可○。

× 「笑える気分」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「視聴者に振りまく」という」(1点)

○ 「視聴者にふるまうという」「視聴者に大いに与えるという」などでも可○。

× 「視聴者に振りまく」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「目的は果たしているものの、」(1点)

○ 「目的は達成しているものの、」「狙いはこなしているものの、」などでも可○。

× 「目的は果たしている」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「形骸化した笑いの技術を使ってそれ自体はさしておかしくはない話を面白おかしく回す仕事を生真面目にこなしている」〈4点〉

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

以下の四要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素で3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「形骸化した笑いの技術を使って」(1点)

○ 「ステレオタイプの笑いの技術を用いて」「型どおりの笑いのテクニックを使って」などでも可○。

× 「形骸化した笑いの技術」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「それ自体はさしておかしくはない話を」(1点)

○ 「そのものとしてはそんなにおかしくはない話を」「実際にはたいして面白くはない話を」などでも可○。

× 「さしておかしくはない話」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「面白おかしく回す仕事を」(1点)

○ 「さも面白そうに回す仕事」「面白おかしく展開する役割を」などでも可○。

× 「面白おかしく回す仕事」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「生真面目にこなしている」(1点)

○ 「実直にこなしている」「真面目に筋に遂行している」などでも可○。

× 「生真面目にこなす」のニュアンスの成分が入っていないければ撥。

C 「芸人たちがタレントたち。」〈1点〉

※ A、Bをまとめる条件。

× 「芸人 or タレント」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A ○1点

日本社会に、〈A 1点〉

B ① ○1点

B ② ○1点

リズムミカルで調子の良い

「楽しい」やりとりや雰囲気を理想とし、〈B 2点〉

C ① ○

C ② ○

想定内での技巧的不一致は歓迎するが、

意味不明なノイズを忌み嫌うという 〈2点〉

X 〈分析Ⅱ分けること〉 ○1点

D ① ○

D ② ○

価値観が広く浸透している 風潮、〈2点〉

X 〈分析〉

ABのうち1つ以上+Cに○↓1点

Y 〈総合〉

Dに○↓1点

〔内容【7点】+構造【2点】=9点〕

【構造点】

☆Xは、傍線部のように筆者がいうことで表現している「日本社会」の風潮を説明すべく、Aの「日本社会」を、(P~but not Q)の構文を構成する〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析Ⅱ分けること〉して説明する構造を形成する——(P~but not Q)の構文も〈not P~but Q〉の構文と同様に否定(not)の成分が入ることで〈矛盾〉抜き去って、〈矛盾〉しない二条件に〈分析Ⅱ分けること〉する構造を形成する(例えば、〈男だよ、女じゃないよ〉で、〈男〉+〈女じゃない〉のように)。もちろんA|| Q)成立しているときみならず1点加算。

X 〈分析Ⅱ分けること〉 〈A、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 ○1点

☆Yは、B、CをDに〈総合Ⅱまとめること〉する構造への評価である。ここでは、Dの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているときみならず1点加算。

Y 〈総合Ⅱまとめること〉 Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「日本社会に、」〈1点〉

※傍線部における風潮を説明するための〈場〉の条件。

※「日本社会」の成分が入っていないければ✕。

B 「リズムミカルで調子の良い『楽しい』やりとりや雰囲気

を理想とし、」〈2点〉

① 「リズムミカルで調子の良い」(1点)

○ 「リズムミカルでテンポの良い」「律動的で調子の良い」などでも可○。

○ 「リズムミカルで調子の良い」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 『楽しい』やりとりや雰囲気

を理想とし、」(1点)

○ 「愉快的な交流や雰囲気

を理想とし、」『楽しい』コミュニケーションや空気を理想とし、」などでも可○。

✕ 「『楽しい』やりとりや雰囲気」が理想」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 「想定内での技巧的不一致は歓迎するが、意味不明なノイズを忌み嫌うという」〈2点〉

※ 傍線部における風潮を説明すべく、Aを説明してゆく〈P〜but notQ〉の〈but notQ〉の条件。

① 「想定内での技巧的不一致は歓迎するが、」(1点)

○ 「技巧的不一致は想定される範囲内歓迎されるが、」予想内の技巧的不一致は歓迎されるが、」などでも可。

※ 「想定内での技巧的不一致は歓迎」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「意味不明なノイズを忌み嫌うという」(1点)

○ 「意味の分からぬノイズを嫌悪するという」「無意味な雑音を憎むという」などでも可○。

※ 「意味不明なノイズを忌み嫌う」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

D 「価値観が広く浸透している風潮。」〈2点〉

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「価値観が広く浸透している」(1点)

○ 「考え方が広く見られる」「見方が支配的である」などでも可○。

※ 「価値観が浸透」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「風潮。」(1点)

※ 「風潮。」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

三 (古文) 採点基準 (40点)

問1 各3点×4＝12点

「傍線部①」「古代の物とし言へば、もてはやしめづるから」の現代語訳。

A〇1点

B〇2点

(模範解答例) 古代の物と言つと必ず、感嘆し賞賛するので、【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A「古代の物と言つと必ず」(1点)

※「古代の物とし言へば」の解釈

○「言へば」が「言つと必ず」のように必然の意で訳してあること。

○「くすると必ず」になつていなくても必然の意味と判断できれば○。「言うならば」のようなものでも可○。

B「感嘆し賞賛するので」(2点)

※「もてはやしめづるから」の解釈。

○「もてはやしめづる」が「賞賛し感動する」のようになっており、「から」が原因の意になつてくること。完答。

※「もてはやし」の部分が「ほめる・めぐる」の意味であること。「もてはやし」のママは不可。✕。

○「大事にする」は良し。「あがめる」も可○。

✕「感嘆し賞賛する」のように二重に書かれてないもの、「もてはやす」のままになっているものは認めない。不可✕。

「傍線部②」「その物はさらにもいはず」の現代語訳。

A〇1点

B〇2点

(模範解答例) その現物は もちろんのこと【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A「その現物は」(1点)

※「その物は」の解釈。Bが出来ていないと得点できない。

○「その現物」「その本体」などと訳してあること。「その物」のママは不可✕。

B「もちろんのこと」(2点)

※「さらにもいはず」の解釈。

○「(今更)言うまでもなく」「当然のこと」などと訳してあること。

✖ 文が続いているので、「もちろんのことである」のような言い切りになっているものは不可✖。

〔傍線部③〕「げに上つ代の人のしわざと見えて」の現代語訳。

A ○1点 B ○2点

(模範解答例) ほんとうに 上代の人がつくったものであると思われて 【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「ほんとうに」(1点)

※ 「げに」の解釈

○ 「実際・本当に・真に」になどとなっていること。

B 「上代の人がつくったものであると思われて」(2点)

※ 「上つ代の人のしわざと見えて」の解釈。

○ 「上代の人」は「昔の人」「古代の人」なども可とする。

✖ 「奈良時代の人」「平安時代の人」などのように時代が限定し過ぎているものも不可✖。

〔傍線部④〕「なほ心得ぬことありて、疑はしくなむ。」の現代語訳。

A ○2点

B ○1点

(模範解答例) やはり納得できないことがあって、 疑わしく思われる 【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「やはり納得できないことがあって」(2点)

※ 「なほ心得ぬことありて」の解釈

○ 「なほ」が「やはり」「心得ぬ」が「理解できない」「納得できない」と訳してあること。完答。

B 「疑わしく思われる」(1点)

※ 「疑はしくなむ」の解釈。

○ 「なむ」が係助詞で結びの省略なので、「疑わしく(思われる)」「疑わしく(なる)」「の」()のよう
に補足が必要になる。「疑わしい」「疑わしく思った」のような解答も可。

※筆者はどのような風潮について、「あぢきなく、心う」く思ったのかわかりやすく説明する。

A〇3点

(模範解答例) 人が何かと古い時代のもをありがたがり、

B〇2点

古い物や図面の偽物を作って人々を混乱させる輩が多かったりする 世間の風潮。【6点】

C〇1点

☆各加点要素の加点の条件

A 「人が何かと古い時代のもをありがたがり」(3点)

※本文出だし「近きころは、いにしへをしのぶともがら、く古代のものと言へば、もてはやしめづるから」をふまえる。

○ 「人々が古い物をひたすらありがたがる」、という内容が書いてあること。

B 「古い物や図面の偽物を作って人々を混乱させる輩が多かったりする」(2点)

※傍線②の後、「図をさへうつして、く人を惑はす類も、また多き」をふまえる。

○ 「古い物の偽物を作って人をだます輩が多い」、という内容が書いてあること。

C 「世間の風潮。」(1点)

※設問に対応する文末。

○ 「く」という風潮。」のような文末処理。「く」ということ。」などでも可。

※この箇所だけでは加点無し。

問3 6点

※「さらにかたもなき事なり、といひおこせたりき」を具体的に説明する。

A○前半

B○2点

(模範解答例)

酒折神社の神主が、本社の屋根の板の間から近年見つけた「火揚命像」と記してある物の

A○3点

C○1点

写しについて、何の根拠もない偽物だ と筆者に言つてよこした こと。【6点】

☆各加点要素の加点の条件

※A・Bは単独採点。CはA・Bに得点がある場合のみ得点できる。

A「酒折神社の神主が」と筆者に言つてよこした」(3点)

※誰が誰にどうしたかを具体的に説明する部分。

○「酒折神社の神主と筆者に」のような人物関係が明記されているということ。

B「本社の屋根の板の間から近年見つけた「火揚命像」と記してある物の写しについて、何の根拠もない偽物だ」(2点)

※「さらにかたもなき事なり」の具体的な内容。傍線部直前までの2段落の内容。

○『火揚命像』と記してある物の写しは偽物だ」の内容

C「こと。」(1点)

※文末処理。ただしこの箇所だけ正解の答案には加点無し。

問4 各3点×2＝6点

(4)・(6)

問5 各2点×2＝4点

ア ヤ行下二段活用動詞「覚ゆ」の連用形

イ ア行下二段活用動詞「得」の連用形

※それぞれ完答。この解答以外は認めない。「覚ゆ」「得」が「おぼゆ」「う」のように平仮名表記になっているのも不可❖。「下二段」のような省略的な名称で表記されているものも不可❖。

問6 6点

※筆者は本文を通じて最近の世間の風潮についてどのようにすべきだと考えているかわかりやすく説明する。

○本文の最後にある「すべてかうやうのたぐひ、今はゆくりかにうけがたきわざなり。心すべし」の箇所を本文の言葉を補足してまとめる。

A 〇2点

(模範解答例)

古代から伝わっているものの中には偽物が多く見られるので

B 〇3点

すぐに本物であると考えてしまうのはよくない

C 〇1点

よくよく注意しなければならぬ。

【5点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「古代から伝わっているものの中には偽物が多く見られるので」(2点)

※

○ 「古代から伝わるものには偽物が多いので」という内容であること。

B 「すぐに本物であると考えてしまうのはよくない」(3点)

※

○ 「本物だとすぐに信じるのはよくない」の内容。「ゆくりか」の解釈(すぐに)が示されていること。

○ 「安易に」「感嘆に」「疑いもなく」などの言葉を使用してまとめてあってもよい。

C 「よくよく注意しなければならない」(1点)

※文末処理。ただしこの箇所だけ正解の答案には加点無し。

○文末が「よくよく注意しなければならない」「注意するべきだと考えている」のようになっていないこと。

四 (漢文) 採点基準 (合計 40 点)

※記述式問題では、「張安道」を、「張方平」「張」「安道」「方平」としても可。

※記述式問題では、「歐陽脩」を、「欧文忠」「歐陽」「脩」としても可。ただし「文忠」としているものはその問題の得点から1点減点(「蘇文忠」と紛らわしいため)。

※記述式問題では、「蘇軾」を、「蘇文忠」「蘇子瞻」「子瞻」としても可。ただし「文忠」としているものはその問題の得点から1点減点(「欧文忠」と紛らわしいため)。

問1 各5点×2＝10点

「傍線部①」「将求知於安道」をすべてひらがなで書き下す。

A 前半〇 B 〇1点 C 〇1点 A 〇3点

(模範解答) まさに ちを あんだ(ど)うに もとめんとす【5点】

※すべてひらがな指定。ひらがな以外が混じっていたら、全体×0点。
※句点「。」の有無は問わない。

☆各加点要素の加点の条件

A 「まさに」も「とめんとす」(3点)

※再読文字「将」の読み方

※一字でも誤りがあれば×A加点なし、0点。

B 「ちを」(1点)

○解答例のみ正解

C 「あんだ(ど)うに」(1点)

○解答例のみ正解

「傍線部②」「何足以為重」をすべてひらがなで書き下す。

A 〇1点 B 〇2点 C 〇2点

(模範解答) なんぞ もつ(つ)ておもしろとなす にたらん【や】【5点】

※すべてひらがな指定。ひらがな以外が混じっていたら、全体×0点。
※句点「。」の有無は問わない。

☆各加点要素の加点の条件

A 「なんぞ」(1点)

※ 「何」の読み方

✕ 一字でも誤りがあれば ✕ A 加点なし、0 点。

B 「もつ(つ)ておもしろとなす」(2点)

※ 「以為重」の読み方

▲ 「おもしろ」の読み方が間違っているものは要素 B ▲ 1点減点。間違い方は問わない。「おもき」「じゅう」「ちよう」いずれも1点減点)

▲ 「もつ(つ)て」となす」の読み方が間違っているものは要素 B ▲ 1点減点。

C 「にたらん[や]」(2点)

※ 「足」の読み

▲ 送り仮名「に」を欠いていたり、他の送り仮名を当てているものは要素 C ▲ 1点減点。

▲ 「足」を、「たらん」「たらんや」以外の読み方をしているもの(「たるや」「たるか」「たらんか」など)は要素 C 1点減点。

問2 7点

※ 「不以其隙為嫌也」とはどのようなことかをわかりやすく説明する。

A ○ 3点

(模範解答) 張安道は、欧陽脩と政治的に対立していたが、

B ○ 4点

文人としての欧陽脩は高く評価していたということ。

☆各加点要素の加点の条件

A 「張安道は欧陽脩と政治的に対立していた」(3点)

▲ 「張安道と欧陽脩が対立していた」ことに触れていないものや、誰と誰とが対立していたのかが不明瞭なものは ▲ 2点減点。

▲ 対立が「政治的」なものであることを説明していないものは ▲ 1点減点。

B 「文人としての欧陽脩は高く評価していた」(4点)

▲ 「文人として」「文章を適切に評価できる者として」の要素を欠いているものは ▲ 1点減点。

- ▲「高く評価した」「認めていた」の要素を欠いているものは▲3点減点。
- ▲「高く」「すぐれた」の要素がなく、「欧陽脩を文人として評価していた」としているものは▲1点減点。ただし、「欧陽脩を高く評価した」「欧陽脩を優れた文人と考えた」という張安道の心情に触れていなくても、「蘇軾たちを欧陽脩に紹介した」「蘇軾たちが欧陽脩と会えるように仲介した」という内容を記しているものは▲2点減点にとどめる。
- 「すぐれた文人として紹介した」「文章を評価するのに適当な人物として紹介した」のように、張安道が欧陽脩をすぐれた文人と考えていることがわかるような書き方をしている場合は可○。
- ▲「欧陽脩のことが（人間として）嫌いではなかった」「欧陽脩と仲が悪くなかった」としているものは▲2点減点。
- ▲傍線部③の主語は張安道であるから、「（張安道と欧陽脩が）お互いに高く評価しあっていた」のような書き方をしているものは▲3点減点。
- ▲「文人として高く評価していた」ことは書いていても、誰が誰を評価していたのかという人物関係が不明瞭なものは要素B3点減点。
- ▲「評価することを嫌がらなかった」などの表現は「文人として」、「高く」の要素がないので▲2点減点。

問3 4点×2＝8点

(1) 4点

※「使人送之京師、謁文忠」に返り点をつける。

(解答) 使_下 人 送_二 之 京 師_一、謁_中 文 忠_上 【4点】

※解答例のみ正解。一か所でも誤りがあるものは×0点。

(2) 4点

※「使人送之京師、謁文忠」の「之」が指す文中の語句を抜き出して答える。

(解答) 蘇文忠父子 (別解) 明允父子 【4点】

☆加点の条件

- ▲「蘇」を欠き、「文忠父子」としているものは▲2点減点で△2点。
- ▲「父子」を欠き、「蘇文忠」「明允」のみになっているものは▲3点減点で△1点
- ×他の答えは不可×0点。
- ×「父子」のみも不可×0点。

問4 5点

※傍線部⑤「高此兩人」を、「此兩人」が誰のことを指すかを明らかにして、わかりやすく現代語訳する。

(模範解答) 張安道と歐陽脩を 高く評価した。【5点】
A○2点 B○3点

☆各加点要素の加点の条件

A「張安道と歐陽脩を」(2点)

※「此の兩人」の指示内容

※どちらか一方でも誤っているものは✕0点。

▲「欧文忠」を「文忠」としている場合、▲1点減点。

B「高く評価した」(3点)

※「を高しとす」の解釈

○「(人格や見識が)立派な(すぐれている)人物であると考えた」という内容であれば可○。

✕「(人格や見識が)立派・優れている」ことにふれていないものは✕加点なし0点。

▲単に「評価した」として、評価の内容が不明確なものは▲2点減点で△1点。

▲「評価が高かった」としているものは、主語が「天下(の人々)」とみなせないので▲2点減点で△1点。

問5 各1×3＝3点

a＝と b＝より c＝すなは(わ)ち

※解答例のみ正解

✕「すべてひらがな」で答えていないものは✕0点。

問6 7点

(五)

※解答例のみ正解